

(2024年 徳島県公立入試 類似)

- (2026年 青森県公立入試 類似)

1. 蘇我馬子が大陸の技師に学んで建立し、瓦葺きの屋根や五重塔を備えた新しい建築様式を日本に定着させた。
2. 鑑真が唐から来日した際に建立され、当時の最新の仏教教義を学ぶための国立の寺院として機能した。
3. 聖徳太子が建立した世界最古の木造建築物であり、法隆寺とともに飛鳥文化を象徴する寺院である。
4. 平氏が権力を握った時代に、瀬戸内海の海上交通の安全を祈願するために大陸の技術を模して造られた。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 十七条の憲法	聖徳太子が推古天皇の摂政を務めていた604年に制定されたと伝えられています。官僚（役人）に対し、仏教や儒教の考え方を取り入れつつ、「和をもって貴しとなす」といった政治的な道徳を説き、天皇の命令に従うべきであることを強調しました。
問2	答え 3 氏姓制度による世襲制の弊害を抑え、個人の能力や功績に応じて人材を登用することで天皇の権力を強めるため。	当時の日本は、有力な豪族が代々特定の官職を独占する氏姓制度が中心でした。聖徳太子は冠位十二階を導入することで、家柄に関わらず有能な人材を政府の中枢に集め、天皇による統治をより確実なものにしようと図りました。
問3	答え 2 隋と対等な立場での国交を結び、独自の地位を築こうとする姿勢	聖徳太子は、当時の中国を中心とした国際秩序（冊封体制）に従うのではなく、日本を「日出づる処」、隋を「日没する処」と表現し、双方の君主を「天子」と呼ぶことで、対等な立場で外交を行おうとしました。これには、隋の力を背景にせずとも自立した国家であることを示す意図がありました。
問4	答え 2 遣隋使 ― 小野妹子	聖徳太子が推古天皇の摂政として政治を行っていた7世紀初め、中国を統一していた王朝は隋です。太子は、大陸の高度な文化や制度を取り入れるため、607年に小野妹子を使節として派遣しました。鑑真は奈良時代に唐から日本へ渡った高僧であり、時代や背景が異なります。
問5	答え 4 白村江の戦い	中大兄皇子（のちの天智天皇）は、友好関係にあった百済を再興させるために朝鮮半島へ軍を送りました。しかし、663年に白村江で唐・新羅の連合軍に大敗を喫しました。この敗北により、日本は唐・新羅による日本への侵攻を警戒し、九州に水城を築いたり、対馬や九州に防人を配置したりするなど、防衛体制の強化を急ぐことになりました。
問6	答え 2 家柄に関わらず、個人の才能や功績に応じて役人を登用し、天皇中心の政治体制を整えようとした	それまでの日本は、氏姓制度によって特定の豪族が世襲的に高い地位を占めていた。聖徳太子は、天皇を中心とした中央集権的な国家を作るため、家柄ではなく個人の能力や実績を評価する「冠位十二階」を導入した。これにより、優れた人材を政府に集めることが可能になり、官僚組織の基礎が築かれた。冠の色で位階を区別する視覚的な序列化も行われた。
問7	答え 4 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に登用する冠位十二階を定めた。	聖徳太子は推古天皇の摂政として、仏教の精神を重んじながら天皇中心の政治体制を整えようとしていました。冠位十二階によって氏姓制度に縛られない人材登用を行い、十七条の憲法によって役人の心得を説くなど、法隆寺の建立と並行して中央集権的な国家の基盤づくりを進めました。
問8	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子は、有力な豪族たちが勢力争いを続けていた当時の状況を改善し、天皇を中心とした中央集権体制を築くことを目指しました。そのために、儒教や仏教の教えを取り入れながら、役人としての心構えを説いたこの法を定めました。選択肢にある他の法は、鎌倉時代の武士のための法（御成敗式目）や江戸時代の大名・裁判のための法であり、時代や対象が異なります。
問9	答え 2 百済	6世紀半ば（538年または552年とされる）に、百済の聖明王から日本の欽明天皇へ仏像や経典が献上されたことが、日本への仏教公伝の始まりです。百済は当時、大陸の文化を日本に伝える重要な窓口となっていました。他の選択肢のうち、高句麗は半島北部、新羅は半島東部に位置していた国であり、渤海はのちに中国東北部で興った国です。
問10	答え 2 十七条の憲法	聖徳太子は、豪族たちが対立していた状況を背景に、役人としての道徳的な心得を示すことで天皇中心の国づくりを進めようとしていました。この法の中では、仏教や儒教の思想が色濃く反映されており、組織の和や天皇への服従が強調されています。
問11	答え 3 冠位十二階	才能や功績に応じて冠の色で位を分けた制度は冠位十二階である。これにより、従来の氏姓制度にとらわれず有能な人物が登用される道が開かれた。十七条の憲法は「和を以て貴しとなす」など役人の心構えを示したものである。
問12	答え 2 十七条の憲法	604年に制定された十七条の憲法は、日本最初の成文法としての性格を持ちますが、現代の法律とは異なり、役人が政治を行う上での「心得」を説いたものです。同じく聖徳太子の政策である冠位十二階は「個人の才能を評価する制度」であり、この憲法とあわせて天皇中心の政治を支える基盤となりました。
問13	答え 1 中国の南北朝時代の文化の影響を強く受け、法隆寺などの寺院が建立された。	広隆寺の弥勒菩薩像は飛鳥文化を代表する仏像の一つです。飛鳥文化は、大陸との交流を通じて伝えられた仏教を中心として発展しました。選択肢にある「唐の影響」は奈良時代の天平文化、「遣唐使廃止後」は平安時代の国風文化、「写実的な表現」は鎌倉時代の文化の特徴を説明したものです。
問14	答え 1 蘇我馬子が大陸の技師に学んで建立し、瓦葺きの屋根や五重塔を備えた新しい建築様式を日本に定着させた。	この寺院は、百済（朝鮮半島）などから招かれた瓦職人や寺工といった専門技師たちの指導によって造られました。それまでの古墳築造に代わり、寺院の建立が権力者の新たな権威の象徴となり、日本の建築技術を大きく飛躍させるきっかけとなりました。